

会 報

No.86 (2007年2月)

目 次

◆ 日本分子生物学会 第14期第5回評議員会報告	1
◆ 「研究倫理委員会の設置」について	4
◆ 特定非営利活動法人 日本分子生物学会 設立総会議事録	5
◆ 日本分子生物学会 第29回総会報告	7
◆ 日本分子生物学会 第15期評議員(理事)選挙結果報告	9
◆ 日本分子生物学会 2007年度収支予算	10
◆ 日本分子生物学会 2008年度収支予算	11
◆ 日本分子生物学会 第7回春季シンポジウムのご案内 『Biology - Old Codes and New Molecules』	12
◆ 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2007) 開催のお知らせ(その1)	14
◆ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	18
◆ 研究助成一覧	19
◆ 会議報告「第20回国際生化学・分子生物学会議」	21
◆ 男女共同参画委員会活動報告	22
◆ 各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	23
○ 第6回日本再生医療学会総会	23
○ 第7回日本蛋白質科学会年会	24
○ 第10回マリンバイオテクノロジー学会大会	25

日 本 分 子 生 物 学 会

The Molecular Biology Society of Japan

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-5

20 山京ビル 11 階

日本分子生物学会事務局

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E メール : info@mbsj.jp

【日本分子生物学会入会申込先】

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/membership1.html>

◆日本分子生物学会 第14期第5回評議員会報告

日 時：2006年12月5日(火) 14:00～17:00

場 所：名古屋国際会議場1号館7階「パステル」

出席者：花岡文雄(会長)、石川冬木、後藤由季子、島本 功、田賀哲也、田中啓二、田矢洋一、鍋島陽一、柳田充弘、山村研一、山本 雅(2007年会長兼)、永田恭介(庶務幹事)、菅澤 薫(会計幹事)、上村 匡(編集幹事)、桂 勲(広報幹事)、本間道夫(集会幹事)、山梨裕司(集会幹事)、町田泰則(2006フォーラム代表)、磯野克己(2006フォーラム特別委員)

以上19名

欠席者：阿形清和、秋山 徹、大隅典子、岡野栄之、押村光雄、影山龍一郎、勝木元也、郷 通子、小原雄治、竹市雅俊、谷口維紹、辻本賀英、中山敬一、本庶 佑、水野 猛、宮園浩平、山本雅之、長田重一(2008年会長)、塩見春彦(2007春季シンポジウム世話人)

以上19名

事務局：福田 博(記録)、並木孝憲、陽 智絵

関係議題参加者：峰崎 愛(2006フォーラム、2007年会事務局より)

本評議員会成立について：

永田庶務幹事より、評議員11名、幹事6名、報告議題関係者2名が出席し、委任状(評議員)17名を受理しており、本評議員会は細則第4章第12条により成立する旨、報告された。

議 事：

1. 報告事項

- 1) 石川研究助成選考委員長より各種研究助成候補の推薦状況や結果等について報告された。引き続き、石川委員長(辻本賞推薦委員長代理)より各種学術賞の推薦状況について報告がなされた。
- 2) 永田庶務幹事(辻本賞推薦委員長代理)より、平成18年度日本分子生物学会三菱化学奨励賞候補として5件の応募があり、選考の結果、以下の受賞者2名が決定されたとの報告がなされた。
○中島 欽一(奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 教授)

【研究題目】

(和文)細胞外因子と細胞内エピジェネティクス機構による神経系細胞の分化・可塑性制御

(英文) Fate regulation of neural cells by extracellular cues and intracellular epigenetic programs

- 村田 茂穂(助東京都医学研究機構 東京都臨床医学総合研究所 主席研究員)

【研究題目】

(和文)哺乳類プロテアソームの多様性と分子基盤の解析

(英文) Studies on the diversity and molecular bases of mammalian proteasomes

授賞式および受賞講演は、フォーラム2日目、2006年12月7日(木) 11:10～より行われる。

- 3) 菅澤会計幹事より2006年度会計収支中間報告(2006年11月6日現在試算表)ならびに2006年3月までの収支見込の報告がなされた。2006フォーラムでは演題発表資格を会員に限定しなかったために、演題申込み締切時期にあたる8月期の新入会登録が例年に比べ少なく、その結果、会費収入(特に学生会員)が予算を下回る見込みである。

また、法人化に対応するため、事務局にて法人会計処理への切り替えを進めており、本年9月1日付にて公認会計士 宮城秀敏氏と監査契約を締結したとの説明がなされた。今後、学会事務局は定期的(月1回)に外部会計事務所(関会計事務所/宮城秀敏氏)の経理指導を受けることになるとの報告がなされた。

- 4) 菅澤会計幹事より、2007年春に導入予定の新会員システムの準備状況につき報告がなされた。事前資料の検討後、最終的には本年7月理研にて、コンピューターシステム開発会社2社のプレ

ゼンを受け、その結果、会員数の多い学会に実績のある京葉コンピュータサービスに Web 新会員システム開発を発注した。現在、開発は順調に進んでおり、事務局にて検証作業を進めている旨報告された。

5) 町田 2006 フォーラム代表ならびに本間集會幹事より、配布資料に基づき準備状況の報告がなされた。演題投稿数は 2147 題、事前参加登録は 2177 名となり、順調に準備が進んでいる（最終的に約 4000 名の参加者となった）。

6) 山本（雅）第 30 回年會長より、開催企画案につき以下の通り報告がなされた。

正式名称：第 30 回日本分子生物学会年會・第 80 回日本生化学會大會 合同大會

略称：BMB2007 (Biochemistry and Molecular Biology 2007)

會期：2007 年 12 月 11 日(火)～ 15 日(土)の 5 日間

会場：パシフィコ横浜、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

プログラム案としては、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、マスターズレクチャー、一般演題、バイオテクノロジーセミナーのほか、最終日の午後に一般市民向けの公開講座を企画予定であるとの報告がなされた。

なお、学会出張の観点からみて、會期 5 日間は長すぎるのではないかとの意見が出された。また、第 29 回年會 (IUBMB2006) ～第 30 回年會 (2007) ～第 31 回年會 (2008) と、合同開催が 3 年続いてしまうことのデメリット、メリットにつき、種々の意見が提出された。

7) 花岡會長（長田第 31 回年會長代理）より、第 31 回日本分子生物学会年會・第 81 回日本生化学會大會合同大會の開催企画概要の報告がなされた。

會期：2008 年 12 月 9 日(火)～ 13 日(土)の 5 日間

会場：神戸ポートアイランド

組織委員：分子生物学会側 長田重一年會長

生化学會側 大隅良典會頭

8) 永田庶務幹事（塩見春彦世話人代理）より配布資料に基づき、第 7 回春季シンポジウムの開催企画につき報告がなされた。

會期：2007 年 4 月 23 日(月)～ 24 日(火)

会場：兵庫県立淡路夢舞台國際會議場

プログラム概要報告（招待講演予定者）に続き、今回の春季シンポジウムは英語による講演を基本にしたいとの企画方針の説明がなされた。

9) 永田庶務幹事より第 15 期評議員（理事）選挙の開票結果報告が行われた。

< 9 頁別掲、選挙結果報告参照 >

10) 上村編集幹事より Genes to Cells の刊行状況等について報告が行われた。印刷版の 2006 年度購読申込実績の報告に続き、本年 4 月～ 10 月までの Genes to Cells オンライン・アクセス不具合問題につき、その経緯の詳細説明がなされた。本件については、その補償と今後の対応につき Blackwell Publishing 社と協議中であるとの説明がなされた。今後、柳田編集長、花岡會長と協議のうえ、契約内容の見直しを検討していく予定である。

引き続き、柳田編集長より刊行状況、審査状況等について詳細説明がなされた。國際誌の中の Genes to Cells の位置づけ、海外出版社の動向などの説明が行われ、活発な意見交換が行われた。フォーラム會期中の 12 月 6 日、Genes to Cells 編集會議を開催予定であり、雑誌の品質がさらに高まるよう検討を重ねたいとの報告が柳田編集長よりなされた。

11) 田賀評議員（大隅男女共同参画委員長代理）より、資料に基づき男女共同参画委員会の活動報告がなされた。

・ 2006 年女子高校生夏の学校 - 科学・技術者のたまごたちへ -

・ 日本學術振興會・特別研究員 (RPD) 制度に関する Web アンケートの実施報告

- ・第4回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムについて（幹事学会として、分子生物学会が運営、2006年10月6日、東大山上会館にて開催）
 - ・2006フォーラムの最終日、ランチョンセミナー枠にてワークショップを開催
第6回男女共同参画企画ワークショップ「研究と子育ての両立をめざして」
（2006年12月8日 12:00～13:00 名古屋国際会議場内B会場にて）
- 12) 永田庶務幹事より最新の会員数報告（総数15486）がなされた。前年同期対比1000名近い減であり、その主たる理由の1つが、2006フォーラムにおいては演題発表資格を会員に限定しなかったことがあげられる。来年の年会（年会発表資格）では、元のルールに戻す方針が確認された。

2. 協議事項

1) 2007年度、2008年度予算案について

菅澤会計幹事より2007年度、2008年度の事業計画および予算案につき詳細説明が行われた。今年は法人申請との兼ね合いもあり、次年度ならびに次々年度の計2年分の予算資料を編成する必要がある。また法人会計に準拠するため、本予算資料より科目等が変更になっている旨説明がなされた。審議の結果、同予算は評議員会で承認され、第29回総会に諮られることとなった。

2) 第32回（2009年）年会について

第32回年会については、年会長を国立遺伝学研究所所長 小原雄治氏に依頼することが諮られ、承認された。

開催地（会場）については、東・西が交互になったほうが良いとの、前回の評議員会（臨時評議員会／2006.6.20）における意見を尊重し、早急に会期、会場を調整することとなった。（2007年会は横浜、2008年会は神戸 → 後日、同2009年会は横浜に決定）

3) 2008年春季シンポジウムについて

世話人を北海道大学遺伝子病制御研究所 畠山昌則教授に依頼することが諮られ、承認された。引き続き、春季シンポジウムのあり方について意見交換がなされた。企画当初（第1回開催は2001年5月）、春季シンポジウム開催の目的は、運営規模の関係で年会が開催できない地方都市で開催することにより、新しい方々の参加を期待し、かつ、その地域の分子生物学研究の発展と理解の促進に寄与することであった。今後もこの基本路線を継承していくことが確認され、世話人に企画を依頼する際には、春季シンポジウムの趣旨に留意することとした。

4) 研究倫理委員会（仮称）（論文不正調査ワーキンググループ）について

杉野論文問題では、学会あてに新聞社等マスコミ各社からの問い合わせも多かったことが花岡会長より報告された。本件については、社会通念として本学会にもその対応に責任があるのではないかと、種々の意見交換がなされた。本件にのみならず、科学者の倫理綱領、行動規範等の設置については、日本学術会議などからもその対応を求められている旨、永田庶務幹事より説明がなされた。

討議の結果、本学会常置委員会として「研究倫理委員会」を発足することとなった。（研究倫理委員会を本日付にて設置、任期は第14期評議員に準じて2007年3月末までとなるが、常置委員会として第15期でも継続設置されたい。）また必要に応じて、研究倫理委員会の下部組織として「ワーキンググループ」を機能させることとなった。

委員会構成についても提案が行われ、以下のように承認された。

〔研究倫理委員会：委員長 柳田充弘 評議員

委員 小原雄治、田中啓二、中山敬一、山本 雅 各評議員〕

「杉野論文調査ワーキンググループ」の人選は、研究倫理委員会に一任され、そのメンバーにはDNA複製の専門家に入ってもらったこととなった。

5) その他

杉野明雄氏より本年11月7日FAXにて、11月9日郵送にて退会届けが提出された旨、花岡

会長より報告がなされた。本会において、現時点ではこのような案件に対応すべき処分に関する取り扱い規定がなく、通常の退会処理をせざるを得ない状況であった。討議の結果、杉野氏個人に対する処分ではなく、社会に対しての説明責任といったスタンスで、対処していくこととなった。

◆「研究倫理委員会の設置」について

日本分子生物学会は、2006年12月5日に特定非営利活動法人設立総会を開催し、12月7日の第29回総会において正式な法人移行を決定致しました。今後、東京都への申請手続きを進め、本年6月頃には特定非営利活動法人日本分子生物学会としての活動を開始致します。その設立趣旨では、広く一般市民に対し、分子生物学に関する研究・教育を推進するための学術研究および普及啓発を行い、わが国におけるライフサイエンスの進歩に寄与していきたい、と謳っております。さらに21世紀の学問を牽引するようなわが国独自の研究を世界に向けて発信し、その役割を果たすことが分子生物学の発展にもつながる、と掲げております。

このような新しい希望に燃える新組織発足の年ではありますが、本学会においては真剣に取り組まねばならないような、大きくて深刻な問題が近年少数ならざる件数で生じております。それは、論文データの捏造や不正経理などにみられる、研究倫理からの著しい逸脱行為です。これらはマスメディアにも取り上げられ、社会的にも不正行為として指弾されているばかりでなく、研究者の作るコミュニティの公正さにも疑問が投げかけられ始めているのは周知の通りであります。

科学研究は一直線に発展してきたものではありません。仮説の提示と検証という試行錯誤の繰り返しを経て、行きつ戻りつ発展してきた経緯があります。しかしこのような積み重ねの前提には「自然」に対する研究者の真摯な態度があったはずです。研究論文がもしも不正捏造データを含みそれが真実として受け止められるなら、学問的知識の継承・蓄積が根幹から揺らぎます。そしてその回復のためには、改めて膨大な労力が必要になります。このために、国などの研究費を支援する機関が、研究不正行為に対して関係研究者および関係研究機関に適切な処置を要求し、さらには研究費の申請の拒絶や、支出を停止する事態になっています。止むを得ないことだとは思いますが、一方で、研究の多くが共同研究から成り立っている時代において、このような事態が共同研究の委縮や大胆な仮説提示の抑制などにつながることを恐れます。

こうした状況の中で杉野明雄教授の論文データ不正捏造事件が起きました。氏は本会において数度にわたって評議員、役員を歴任し、さらに2000年においては年会長を務めるなど、その研究者としての指導的立場と学会組織において果たしてきた役割を考慮すると、自ら為したとされるデータ捏造とそれらの論文としての公表は、論文がたとえ撤回されたとしても、影響の深刻さは測り知れません。本学会としても、この事態をきわめて深刻に受け止めねばならないのは明らかです。

本学会が組織として研究不正に対して取り組むのは遅きに失したとの批判はあると思われれます。しかし今日においてもなお、研究倫理の問題に学会が正面から取り組むことがきわめて重要であるとの認識を持つに至りました。そして、12月5日の評議員会において研究倫理委員会を設置することが認められました。

委員は評議員5名より構成され、小原雄治（遺伝研）、田中啓二（都臨床研）、中山敬一（九大）、柳田充弘（委員長、京大、沖縄整備機構）、山本雅（東大）と決まりました。委員会は研究倫理の問

題全般に取り組み、学会としての指針を作成しそれを速やかに公開することを目的とします。個々の不正問題については、会員および非会員の専門家をお願いしてワーキング・グループを結成し、調査と報告書の作成を依頼することになります。学会は、研究倫理委員会、個々のワーキング・グループの活動を支援する所存であります。

何とぞよろしくご支援、ご協力のほどをお願い致します。

2007年2月

日本分子生物学会
第14期 会長 花岡文雄

◆特定非営利活動法人 日本分子生物学会 設立総会議事録

1. 開催日時 平成18年12月5日 午後5時10分から午後5時40分まで
2. 開催場所 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号
名古屋国際会議場1号館7階 展望レストラン「パステル」
3. 出席者数 19名
4. 出席者名 石川冬木、磯野克己、上村 匡、桂 勲、後藤由季子、島本 功、菅澤 薫、
田賀哲也、田中啓二、田矢洋一、永田恭介、鍋島陽一、花岡文雄、本間道夫、
町田泰則、柳田充弘、山梨裕司、山村研一、山本 雅
5. 審議事項
第1号議案 議長の選任
第2号議案 特定非営利活動法人日本分子生物学会設立について
第3号議案 特定非営利活動法人日本分子生物学会の定款について
第4号議案 設立当初の役員について
第5号議案 事業計画及び収支予算について
第6号議案 設立当初の入会金及び会費について
第7号議案 特定非営利活動促進法第2条第2項第2号及び第12条第1項第3号に該当する団体であることの確認について
第8号議案 法人設立認証申請について
6. 議事の経過の概要及び議決の結果
第1号議案 議長の選任
司会より、花岡 文雄氏を議長に指名し、全員異議なくこれを承認した。
第2号議案 特定非営利活動法人日本分子生物学会の設立について
議長は、設立趣旨書を配布の後、この趣旨をもとに特定非営利活動法人日本分子生物学会を設立したい旨を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。
第3号議案 特定非営利活動法人日本分子生物学会の定款について
議長より、定款案を配布し、逐条審議したところ、全員異議なくこれを承認した。
第4号議案 設立当初の役員について

議長より設立当初の役員の選出について提案があり、それぞれ次の者を選出し、全員異議なくこれを承認した。

役 職 名	氏 名
理 事 長	花岡 文雄
理 事	阿形 清和、秋山 徹、石川 冬木、大隅 典子、岡野 栄之、 押村 光雄、影山龍一郎、勝木 元也、郷 通子、後藤由季子、 小原 雄治、島本 功、田賀 哲也、竹市 雅俊、田中 啓二、 谷口 維紹、田矢 洋一、辻本 賀英、中山 敬一、鍋島 陽一、 本庶 佑、水野 猛、宮園 浩平、柳田 充弘、山村 研一、 山本 雅、山本 雅之
監 事	荒木 弘之、近藤 寿人

第5号議案 事業計画及び収支予算について

議長は、当法人の設立初年度及び翌年度の事業計画書及び収支予算書につき原案を議場に説明し、承認を求めたところ、全員異議なく原案のとおり承認可決した。

第6号議案 設立当初の入会金及び会費について

議長より設立当初の入会金及び会費について諮り、審議の結果、定款附則の入会金及び年会費につき、下記の金額とすることで、全員異議なくこれを承認可決した。

会員の種別	入 会 金	年 会 費
正 会 員（個人）	1,000 円	6,500 円
学生会員	1,000 円	3,000 円
賛助会員（個人・団体）	0 円	1 口 40,000 円（1 口以上）

第7号議案 特定非営利活動促進法第2条第2項第2号及び第12条第1項第3号に該当する団体であることの確認について

議長は、特定非営利活動促進法第2条及び第12条を朗読の後、当団体が特定非営利活動促進法第2条第2項第2号及び第12条第1項第3号に該当する団体であることにつき確認を求めたところ、全員異議なく承認可決し、確認された。

第8号議案 法人設立認証申請について

議長より法人設立の認証を申請するため、下記事項について諮ったところ、審議の結果、全員異議なくこれを承認した。

- ① 設立代表者には、花岡 文雄氏が選任され、被選任者はその就任を承諾した。
- ② 役員に決定した者は、平成 19 年 1 月 4 日までに就任承諾書及び宣誓書を提出する。
- ③ 役員のうち報酬を受ける者はいない。
- ④ 設立当初の社員は、社員名簿記載のとおりとする。
- ⑤ 設立認証申請の手続のために、定款その他の書類について、原案の骨子に変更のない程度の字句の修正については申請者として福島 達也氏に一任する。

7. 議事録署名人の選任について

議事録署名人について、議長より本日出席の田中 啓二氏、田矢 洋一氏の2名を指名したところ、全員異議なく承認した。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成 18 年 12 月 5 日

議 長 花岡 文雄 ㊟

議事録署名人 田中 啓二 ㊟

議事録署名人 田矢 洋一 ㊟

◆日本分子生物学会 第 29 回総会報告

日 時：2006 年 12 月 7 日(木) 12：00～13：00

場 所：名古屋国際会議場（A 会場）

議事内容：

1. 開会の会長挨拶の後、総会議長として黒岩 厚氏を選出した。
2. 議長より、647 通の委任状を含めて総会の成立していることが報告された。
3. 経過報告

1) 会長報告

花岡会長より、今年は第 29 回年会在 IUBMB2006（京都）となったことから、この時期に 2006 フォーラム「分子生物学の未来」を開催したこと、本年 9 月に独立した学会事務局を開設したこと、ならびに男女共同参画委員会の活動状況につき報告がなされた。

今後早急に取り組むべき懸案として、研究倫理、論文不正調査などの問題があり、2006 年 12 月 5 日の評議員会において研究倫理委員会を発足した旨報告された。

また、第 32 回（2009 年）年会については、一昨日開催の評議員会において、国立遺伝学研究所所長 小原雄治氏に年会長をお願いすることが決定した。

2) 編集（Genes to Cells）報告

上村編集幹事より Genes to Cells の刊行状況ならびにオンライン・アクセス不具合問題につき、その経緯の詳細説明がなされた。今後、柳田編集長、花岡会長と協議のうえ、出版社との契約内容の見直しを検討していく予定であるとの報告がなされた。

3) 庶務報告

永田庶務幹事より会員現況についての報告がなされた。〔2006 年 12 月 6 日現在、正会員 9729 名、学生会員 5447 名、海外会員 270 名、名誉会員 3 名、賛助会員 40 団体〕

また、本年 11 月に第 15 期評議員（理事）選挙が実施され、11 月 29 日、筑波大学において選挙管理委員会により開票作業が行われた。選挙結果については、次号会報 2 月号（86 号）に掲載予定である。

平成 18 年度三菱化学奨励賞については、先ほど行われた、授賞式・受賞記念講演の通りである。

4) 2007 年春季シンポジウムについて

永田庶務幹事（塩見世話人代理）より、標記シンポジウムは 2007 年 4 月 23 日～24 日、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場にて開催予定であることが報告された。

4. 議 題

1) 前年度会計収支決算承認の件

菅澤会計幹事より 2005 年度会計収支決算書につき説明がなされ、異議なく承認された。

2) 特定非営利活動法人（NPO 法人）設立の件

花岡会長より、この1年の法人化に向けての経緯につき詳細報告がなされた。一昨日12月5日(火)の定例評議員会終了後、本会議場において、特定非営利活動法人日本分子生物学会の設立総会を開催し、法人設立の意思決定確認がなされたことが報告された。

法人の種類等に関する質疑応答が行われた後、特定非営利活動法人設立が諮られ、異議なく承認された。

3) 会則改正(法人定款へ移行)の件

配布資料に基づき、花岡会長より法人定款の詳細説明が行われた。

今後の予定は、2007年1月に東京都へ法人申請を行い、法人認証は2007年5月頃、2007年6月頃に法務局への設立登記を予定している。正式な法人設立日(登記完了日)をもって、任意団体会則から法人定款に切り替わる予定であることの報告がなされた。

以上の説明の後、会則改正(法人定款へ移行)の件は、異議なく承認された。

4) 会費改定および会計年度変更の件

第14期評議員会(6月開催の臨時評議員会、12月5日開催の定例評議員会)では、学会法人化ならびに学会事務局開設に伴う2006年度～2008年度の収支を、法人会計に準拠した科目にて試算検討してきた旨、菅澤会計幹事より報告がなされた。その検討の結果、正会員、賛助会員各位においては、2007年度より以下の会費改定を認めて頂きたいとの説明がなされた。

出席会員からの質疑応答が行われた後、会費改定について承認された。

『2007年度からの会費改定』

正会員会費：4,500円 → 6,500円 (海外在住会員も同様)

賛助会員会費1口：30,000円 → 40,000円

(※学生会員会費3,000円と、正会員、学生会員それぞれの入会金1,000円は据え置き)

法人になった場合には、事業年度(会計年度)終了後、3カ月以内に、収支決算書、財務諸表、事業報告書を公的に提出しなければならず、総会開催日(定款上、承認すべき事項がある)との兼ね合いもあり、会計年度変更が必要となる旨、菅澤会計幹事より報告された。

出席会員からの質疑応答が行われた後、会計年度変更の件は異議なく承認された。

会計年度(事業年度)：4月～3月 → 10月～9月

移行期においては、会計年度は次の通りとなる。

※ 2006年度会計 → 2006年4月1日～2007年3月31日

※ 2007年度会計 → 2007年4月1日～2007年9月30日

※ 2008年度会計 → 2007年10月1日～2008年9月30日

5) 平成19年度(2007年度)ならびに平成20年度(2008年度)収支予算承認の件

菅澤会計幹事より、今年は法人申請との兼ね合いもあり、次年度ならびに次々年度の計2年分の予算を編成する必要があるとの説明がなされた。同予算資料の詳細説明の後、同予算は異議なく承認された。

5. 町田泰則 2006フォーラム組織委員代表の挨拶があり、フォーラムは順調に運営されているとの説明がなされた。

6. 山梨集会幹事(山本 雅第30回年会長代理)より、第30回年会は生化学会との合同大会で、2007年12月11日(火)～15日(土)の日程で、パシフィコ横浜にて開催予定であることが報告された。

7. 花岡会長(長田重一第31回年会長代理)より、第31回年会は生化学会との合同大会で、2008年12月9日(火)～13日(土)の日程で、神戸ポートアイランドにて開催予定であることが報告された。

8. 議長より閉会の挨拶があり、総会が終了した。

◆日本分子生物学会 第 15 期評議員（理事）選挙結果報告

選挙公示日：2006 年 11 月 2 日（会報 85 号に綴じ込み）

投票締切日：2006 年 11 月 29 日

開票日：2006 年 12 月 2 日

開票場所：筑波大学医学専門学群棟 4 階 4A-411 号会議室

開票立会人：選挙管理委員（柳澤 純、奥脇 暢、山本雅之）、庶務幹事（永田恭介）

有権者数：15,445 名

有効投票数：727 通

当選者：阿形清和[○]・石川冬木[○]・上村 匡・大隅典子[○]・大隅良典・岡田清孝・岡野栄之[○]
勝木元也[○]・加藤茂明・郷 通子[○]・後藤由季子[○]・小原雄治[○]・榊 佳之
篠崎一雄・竹市雅俊[○]・田中啓二[○]・田畑哲之・月田早智子・長田重一・中西重忠
中山敬一[○]・西田栄介・花岡文雄[○]・本庶佑[○]・町田泰則・水野 猛[○]・宮園浩平[○]
山中伸弥・山本 雅[○]・山本正幸
([○]印は 14 期より連続して選出された方です。)

以上 30 名、50 音順

◆日本分子生物学会 2007 年度収支予算

平成 19 年度 (2007 年度) 収支予算

平成 19 年 4 月 1 日から平成 19 年 9 月 30 日まで

日本分子生物学会

科 目	前年度予算	19 年度予算案	備 考
I 収入の部			
1 入会金収入	300,000	500,000	
正 会 員	150,000	200,000	1,000 円 × 200 名
学生会員	150,000	300,000	1,000 円 × 300 名
2 会費収入	56,380,000	72,360,000	
正 会 員	39,690,000	55,580,000	6,500 円 × 9,500 名 × 90%
学生会員	14,640,000	14,400,000	3,000 円 × 6,000 名 × 80%
海外在住	700,000	700,000	
賛助会員	1,350,000	1,680,000	40,000 円 × 42 口
3 事業収入	3,500,000	8,600,000	
①分子生物学・学術研究事業	0	6,600,000	<学術集会の開催等>
年会	—	—	第 30 回年会収支は 20 年度会計へ
春季シンポジウム	—	6,600,000	市民公開講座含む
②普及啓発事業 (HP・刊行物等)	3,500,000	2,000,000	
広告収入 (会員名簿)	1,800,000	—	
国際誌編集協力金	1,700,000	2,000,000	ブラックウエル社より
③その他の事業	0	0	
その他の事業	0	0	
4 助成金・補助金収入	1,300,000	0	会計期間変更により、分子側は 20 年度会計へ
5 雑収入	60,000	60,000	複写使用料分配金、JST 抄録利用料等
当期収入合計 (A)	61,540,000	81,520,000	
前期繰越収支差額	48,800,000	39,400,000	
収入合計 (B)	110,340,000	120,920,000	
II 支出の部			
1 事業費	39,950,000	25,700,000	
①分子生物学・学術研究事業	12,000,000	10,600,000	<学術集会の開催等>
年会	5,000,000	—	第 30 回年会収支は 20 年度会計へ
春季シンポジウム	7,000,000	10,600,000	うち 700 万円は補助金支出
②普及啓発事業 (HP・刊行物等)	25,650,000	13,100,000	
会報刊行費	3,300,000	1,500,000	6 月号のみ (A4 版へ)
国際誌発行支援金	10,000,000	5,000,000	Genes to Cells 編集関係費 (半年分)
国際誌オンライン費用	4,400,000	4,400,000	ブラックウエル社支払い (フリーアクセス料 100 万円含む)
国際誌購読関係費	750,000	0	学会内部処理へ
会員名簿発行費	6,500,000	—	
ホームページ関係費	700,000	2,200,000	10 万円 × 6 カ月 + リニューアル 80 万円 + メール配信・予備 80 万円
③その他の事業	2,300,000	2,000,000	
三菱化学奨励賞関係費	1,300,000	0	会計期間変更により、分子側は 20 年度会計へ
事業費その他	1,000,000	2,000,000	
2 管理費	27,750,000	23,530,000	
事務所賃料	—	1,300,000	賃料、管理費、光熱費等含む (半年分)
給与手当	—	9,000,000	事務局人件費 (半年分)
法定福利費	—	1,000,000	社会保険料・雇用保険等事業者負担分 (半年分)
福利厚生費	—	80,000	
業務委託費	12,000,000	700,000	外部会計事務所監査含む
会員管理システム運用管理費	—	1,200,000	サーバー運用保守等
印刷費	350,000	1,000,000	会費請求書出力含む
通信運搬費	12,900,000	6,000,000	半年分 (会報、会費請求)
消耗品費	500,000	500,000	(18 年度は庶務幹事事務費)
旅費交通費	1,100,000	1,500,000	新旧合同評議員会 他
会議費	100,000	300,000	
支払手数料	0	150,000	(半年分)
雑費	800,000	800,000	
3 租税公課	—	0	
4 予備費	2,000,000	1,000,000	(半年分)
当期支出合計 (C)	69,700,000	50,230,000	
当期収支差額 (A)-(C)	-8,160,000	31,290,000	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	40,640,000	70,690,000	

(単位：円)

◆日本分子生物学会 2008 年度収支予算

平成 20 年度（2008 年度）収支予算

平成 19 年 10 月 1 日から平成 20 年 9 月 30 日まで

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

科 目	20 年度予算案	備 考
I 収入の部		
1 入会金収入	500,000	
正 会 員	200,000	1,000 円 × 200 名
学生会員	300,000	1,000 円 × 300 名
2 会費収入	72,360,000	
正 会 員	55,580,000	6,500 円 × 9,500 名 × 90%
学生会員	14,400,000	3,000 円 × 6,000 名 × 80%
海外在住	700,000	
賛助会員	1,680,000	40,000 円 × 42 口
3 事業収入	234,800,000	
①分子生物学・学術研究事業	232,800,000	<学術集会の開催等>
年会	226,200,000	第 30 回年会（合同大会）案分繰入れ（377,000,000 円 × 60%）
春季シンポジウム	6,600,000	市民公開講座含む
②普及啓発事業（HP・刊行物等）	2,000,000	
国際誌 編集協力金	2,000,000	ブラックウエル社より
③その他の事業	0	
その他の事業	0	
4 任意団体日本分子生物学会からの寄付金収入	70,700,000	
5 助成金・補助金収入	1,300,000	三菱化学より、奨励賞副賞および選考経費として
6 雑収入	60,000	複写使用料分配金、JST 抄録利用料等
当期収入合計（A）	379,720,000	
前期繰越収支差額	—	
収入合計（B）	379,720,000	
II 支出の部		
1 事業費	261,000,000	
①分子生物学・学術研究事業	236,800,000	<学術集会の開催等>
年会	226,200,000	うち 500 万円は補助金支出
春季シンポジウム	10,600,000	うち 700 万円は補助金支出
②普及啓発事業（HP・刊行物等）	20,400,000	
会報刊行費	4,000,000	
国際誌発行支援金	10,000,000	
国際誌オンライン費用	4,400,000	ブラックウエル社支払い（フリーアクセス料 100 万円含む）
ホームページ関係費	2,000,000	10 万円 × 12 カ月 + メール配信・予備 80 万円
③その他の事業	3,800,000	
三菱化学奨励賞関係費	1,300,000	
事業費その他	2,000,000	
役員選挙	500,000	電子投票 / 検討
2 管理費	44,100,000	
事務所賃料	2,600,000	賃料、管理費、光熱費等含む
給与手当	18,000,000	事務局人件費
法定福利費	2,000,000	社会保険料・雇用保険等事業者負担分
福利厚生費	100,000	雇用職員健康診断等
業務委託費	900,000	外部会計事務所監査含む
会員管理システム運用管理費	2,400,000	サーバー運用保守等
印刷費	1,500,000	会費請求書出力含む
通信運搬費	12,500,000	会報、会費請求、年会プログラム
消耗品費	800,000	封筒代含む
旅費交通費	2,000,000	役員会他
会議費	300,000	
支払手数料	200,000	
雑費	800,000	
3 租税公課	2,000,000	年会関係展示収支に対する課税等
4 特定預金支出	1,000,000	法定退職給与積立金
5 予備費	2,000,000	
当期支出合計（C）	310,100,000	
当期収支差額（A）-(C)	69,620,000	
次期繰越収支差額（B）-(C)	69,620,000	

（単位：円）

◆日本分子生物学会 第7回春季シンポジウムのご案内

『Biology – Old Codes and New Molecules』

シンポジウムに関する詳細は、ホームページをご確認下さい。

<http://www.aeplan.co.jp/mbsj2007/>

【会 期】 2007（平成19）年4月23日（月）～24日（火）（2日間）

【会 場】 兵庫県立淡路夢舞台国際会議場（兵庫県淡路市）

（新幹線新神戸駅、JR三宮駅よりバス約50分またはJR山陽線舞子駅よりバス約20分）

【参加費】

	参加費	懇親会費
一般	2,000円	2,000円
学生	無料	無料

【プログラム】

22日（日） 午後（徳島市）市民公開講座

会場：徳島大学 長井記念ホール（徳島大学蔵本キャンパス内）

時間：14：00～16：00（予定）

講師：阿形 清和 教授（京都大学大学院理学研究科）

演題：「プラナリアの再生のメカニズム」

23日（月） 午前・午後 招待講演および一般講演（口頭、ポスター）

夕方 懇親会

24日（火） 午前・午後 招待講演および一般講演（口頭）

< Session topics >

- small RNAs and development
- non-mendelian inheritance and epigenetics
- germ line stem cells and hubs
- cell cycle and chromosome segregation cycle

【招待講演者および演題】（予定講演者；敬称略）

○ Antonio J. Giraldez (Yale University)

演題（未定）

○ Oliver Hobert (HHMI, Columbia University Medical Center)

演題「Transcription factors and miRNAs controlling neuronal cell fate specification in the nematode *C. elegans*」(仮題)

○ Erika Matunis (The Johns Hopkins University School of Medicine)

演題「Spermatogonial stem cell renewal in *Drosophila*」(仮題)

○ Iain M. Hagan (Paterson Institute for Cancer Research)

演題「Environmental control of cell growth through the regulation of mitotic kinases」(仮題)

○ Robert E. Pruitt (Purdue University)

演題「Is there a simple explanation for unusual inheritance in hothead mutants of *Arabidopsis*?」(仮題)

○ 角谷 徹仁（国立遺伝学研究所）

演題「Epigenetic inheritance of developmental variation, transposon activity, and DNA methylation in *Arabidopsis*.」(仮題)

○小林 悟（岡崎国立共同機構・統合バイオサイエンスセンター）

演題「Role of signaling from germline to soma in Germline-Stem-Cell-Niche formation in *Drosophila* male gonad」（仮題）

○塩見美喜子（徳島大学ゲノム機能研究センター）

演題「RNA silencing mechanisms in *Drosophila* germline cells」（仮題）

○渡辺 嘉典（東京大学分子細胞生物学研究所）

演題「Shugoshin plays several crucial roles in eukaryotic chromosome segregation」（仮題）

【発表形式】

(1) 招待講演

(2) 一般講演募集

（ポスター発表演題を募集、その中から 15 演題程度を一般講演（口頭発表）として採択いたします。）

※本シンポジウムでは、英語を基本言語とします。

一般講演（口頭発表）に採択された方には、英語でご発表いただきます。

ポスター発表の申し込み締切は、2月28日(水)です。

【参加・宿泊申込】

第7回春季シンポジウムのホームページより参加・宿泊申込書（PDF）をダウンロードして頂き、必要事項をご記入の上、シンポジウム事務局まで FAX にてお送り下さい。

ウェスティンホテル淡路の宿泊につきましては、事務局で受け付け致します。（宿泊予約なし・参加のみの申込みも可能です）

参加・宿泊の申し込み締切は、3月30日(金)です。

【問合せ】

〒770-8503 徳島市蔵本 3-18-15

徳島大学ゲノム機能研究センター

分子機能解析分野・塩見研究室

電話：088-633-9456、FAX：088-633-9492、

E-mail: mbsj2007@genome.tokushima-u.ac.jp

◆第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2007)
開催のお知らせ (その1)

第30回日本分子生物学会年会は、日本生化学会との合同大会として開催いたします。

日本の生命科学分野を代表する二つの年(大)会がひとつとなり、合同大会ならではの活気に満ち充実した内容となるよう企画を進めております。

会員の皆様より、多くのご参加をお待ちしております。

会 期 2007年12月11日(火)～15日(土)

会 場 パシフィコ横浜、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

プログラム (予定)

○特別講演

Timothy Hla (University of Connecticut)

中西 重忠 (大阪バイオサイエンス研究所)

Andrew Murray (Harvard University)

ほか

○シンポジウム

プログラム委員の企画による約45テーマを予定。

テーマ等は合同大会ホームページにてご確認ください (<http://www.aeplan.co.jp/bmb2007/>)。

○ワークショップ (公募締切: 2007年3月30日(金))

公募により企画・提案されたワークショップを70テーマ開催予定です。

募集要項は下記『ワークショップ公募について』をご確認ください。

○一般演題 (ポスター・口頭発表・ワークショップ)

7月にオンラインにて演題投稿を受け付ける予定です。

投稿に関する詳細は、日本分子生物学会報(87号・6月発行予定)・日本生化学会「生化学」誌(79巻6号・6月発行)および決定次第合同大会ホームページにてお知らせいたします。なお、口頭発表・ワークショップへ採択された一般演題は、ポスター発表との両方の発表を行っていただく予定です。

演題の申し込みには、日本分子生物学会(または日本生化学会)の会員であることが必要です。

未入会の方は早目に入会手続きを済ませてください。

○マスターズレクチャー

○バイオテクノロジーセミナー (ランチョンセミナー)

○男女共同参画企画

○市民公開講座

○その他

ワークショップ公募について (応募締切日: 2007年3月30日(金))

1テーマあたり2時間30分の時間枠で、約70テーマを採択します。

演者につきましては、オーガナイザーにてご指定いただく方のほか、一般演題からの採択も行っていただく予定です。

ご提出いただいたワークショップ企画は、厳正なる審査の上、採否を決定いたします。採否結果は4月末頃に応募者へご連絡いたします。

なお、応募者は日本分子生物学会または日本生化学会の会員に限ります。

その他ご不明な点がございましたら、下記大会事務局までお問い合わせ下さい。

たくさんの魅力あふれる企画提案をお待ちしております。

【ワークショップ企画 応募要項：2007年3月30日(金)締切】

下記事項をご記入のうえ、3月30日(金)までに下記大会事務局まで E-mail にてご提出ください。

- ① テーマタイトル
- ② オーガナイザーの氏名・所属（2名）
- ③ 概要（400字程度）
- ④ 予定演者の氏名・所属（あくまで案で結構です）
- ⑤ 連絡窓口となるオーガナイザーの氏名および連絡先
- ⑥ オーガナイザーが日本分子生物学会会員か日本生化学会会員か
- ⑦ 予想される聴衆数

シンボルマーク（ロゴ）デザイン公募について

合同大会開催を記念し、シンボルマーク（ロゴ）デザインを公募します。

厳選なる審査の結果、選出されたシンボルマーク（ロゴ）デザインは、以後本大会の印刷物やホームページに掲載されます。なお採択案については、提案者とご相談の上専門家の修正が入ることもありますのでご了承ください。

また、採用されたデザイン応募者には賞金として10万円を贈呈いたします。

審査の結果は日本分子生物学会会報（87号・6月発行予定）・日本生化学会「生化学」誌（79巻6号・6月発行）および決定次ホームページにてお知らせいたします。

本大会を印象付けるようなユニークなデザインをお待ちしております。

（採用されたデザインの著作権は本大会に帰属します。予めご了承下さい。）

【シンボルマーク（ロゴ）デザイン 応募要項：2007年3月30日(金)締切】

下記事項をご記入のうえ、3月30日(金)までに下記大会事務局まで E-mail 添付または郵送にてご提出ください。

賞金：10万円

- ・ デザイン（画像データ）
- ・ デザイナー氏名、連絡先

合同大会に関するお問合せ

BMB2007（第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会）事務局

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-4-63 新大阪千代田ビル別館9階

Tel：(06)-6350-7247 Fax：(06)-6350-7248 E-mail：bmb2007@aeplan.co.jp

合同大会ホームページ：http://www.aeplan.co.jp/bmb2007/

【BMB2007 組織委員一覧】

(2007年1月現在)

＜大会長＞

- 第30回日本分子生物学会年会 年会長
山本 雅 東京大学医科学研究所
第80回日本生化学会大会 会頭
清水孝雄 東京大学大学院医学系研究科

＜プログラム幹事＞

- 第30回日本分子生物学会年会 プログラム幹事
井上純一郎 東京大学医科学研究所
第80回日本生化学会大会 プログラム幹事
新井洋由 東京大学大学院薬学系研究科

＜庶務幹事＞

- 第30回日本分子生物学会年会 庶務幹事
山梨裕司 東京医科歯科大学難治疾患研究所
第80回日本生化学会大会 庶務幹事
北 潔 東京大学大学院医学系研究科

＜プログラム委員＞

脂質性メディエーター

和泉孝志 多久和陽

生体膜

梅田真郷 植田和光

コレステロール

小林俊秀 佐藤隆一郎

糖質生物学

遠藤玉夫 古川鋼一

成松 久 入村達郎

木下タロウ 菅原一幸

タンパク質の構造生物学

稲垣冬彦 藤吉好則

タンパク質の修飾と分解

水島 昇 岩井一宏

プロテオミクス

平野 久 小田吉哉

メタボリックシンドローム

門脇 孝 宮崎 徹

メタボローム

末松 誠 富田 勝

細胞増殖、細胞周期

稲垣昌樹 佐谷秀行

細胞分化・極性

大野茂男 浜田博司

細胞運動、細胞骨格

貝淵弘三 三木裕明

細胞接着と細胞間認識

月田早智子 村上善則

シグナル伝達、細胞死

一條秀憲 後藤由季子

染色体の構築と分離

渡辺嘉典 深川竜郎

オルガネラの機能、小胞輸送

中野明彦 堅田利明

エネルギー代謝

吉田賢右 北 潔

イオンチャネルとトランスポーター

金井好克 山口明人

複製・組換え・修復・変異

正井久雄 大森治夫

宮川 清 武田俊一

転写・クロマチン

加藤茂明 古関明彦

エピジェネティック制御・ジーンサイレンシング

石野史敏 佐々木裕之

RNA (構造・機能・遺伝子制御)

塩見晴彦 中村義一

癌

古川洋一 宮園浩平

神経疾患 (ゲノム研究から)

辻 省次 戸田達史

ゲノムと疾患

木村彰方 徳永勝士

神経発生

三浦正幸 仲嶋一範

神経ネットワーク

三品昌美 真鍋俊也

発生・形態形成

栗原裕基 瀬原淳子

再生・幹細胞

阿形清和 中内啓光

免疫

三宅健介 坂口志文

神経疾患 (生化学的研究から)

岩坪 威 加藤忠史

骨疾患

高柳 広 川口 浩

感染症

河岡義裕 笹川千尋

植物メタボローム

齊藤和季 有田正規

植物細胞の生物学

福田裕穂 田坂昌生

バイオイメーjing

宮脇敦史 松田道行

システムバイオロジー

北野宏明 近藤 滋

ケミカルバイオロジー

上杉志成 長田裕之

ナノバイオロジー

船津高志 嶋本伸雄

モデル生物を用いた生物学 (多細胞)

仁科博史 飯野雄一

モデル生物を用いた生物学 (単細胞)

齊藤春雄 倉光成紀

生物時計

上田泰己 影山龍一郎

<推進委員>

相川京子	岸本健雄	竹市雅俊	深見希代子
秋山 徹	工藤一郎	竹縄忠臣	深水昭吉
審良静男	黒田玲子	田中啓二	福井 清
新井賢一	郷 通子	谷口維紹	二井將光
荒木弘之	五嶋良郎	多羽田哲也	本庶 佑
安楽泰宏	児玉龍彦	田矢洋一	本間道夫
五十嵐和彦	後藤祐児	辻本賀英	前田秀一郎
五十嵐道弘	小原雄治	東原和成	正木春彦
石井俊輔	木南英紀	遠山千春	的崎 尚
石浦章一	小安重夫	長岡 功	馬淵一誠
石川冬木	榊 佳之	永田恭介	御子柴克彦
石村 巽	坂野 仁	長田重一	水野 猛
一瀬白帝	笹月健彦	中西重忠	宮崎 章
井上圭三	篠崎一雄	中山敬一	宮島 篤
岩倉洋一郎	渋谷正史	鍋島陽一	矢富 裕
上田卓也	島本 功	成宮 周	柳田充弘
遠藤斗志也	清水元治	西島正弘	山下 茂
大隅典子	菅澤 薫	西田栄介	山村研一
大隅良典	菅野純夫	西村いくこ	山本一夫
大坪久子	鈴木紘一	野地澄晴	山本一彦
岡島史和	関水和久	野本明男	山本正幸
岡野栄之	脊山洋右	萩原正敏	山本雅之
岡山博人	仙波憲太郎	長谷俊治	横沢英良
小川佳宏	左右田健次	畑 裕	横山茂之
押村光雄	田賀哲也	花岡文雄	吉本谷博
片岡一則	高井義美	林崎良英	渡邊公綱
勝木元也	高橋典子	平田雅人	
桂 勲	高橋正身	廣川信隆	

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会研究助成選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 研究助成・選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
（賞推薦の場合はコピー計7部をご提出下さい。）
- 3) 申込受付確認のための返信封筒（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

4月より第15期役員会に移行しますので、送付先変更の可能性があります。3月末日までは下記に提出してください。4月以降の送り先については、学会事務局（TEL：03-3556-9600、E-mail：info@mbsj.jp）にお問い合わせください。

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長 辻本賀英
〒565-0871 吹田市山田丘2-2 大阪大学大学院医学系研究科 B8 遺伝子学
FAX：(06) 6879-3369

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長 石川冬木
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町 医学・生命科学総合研究棟 405号
京都大学大学院生命科学研究科 細胞周期学分野
FAX：(075) 753-4197

3. 提出期限

財団等の締切の1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

◆研究助成一覧

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
第 38 回三菱財団 自然科学研究助 成	(財)三菱財団 ☎ (03) 3214-5754 〒 100-0005 千代田区丸の内 2-3-1	総額 3 億円、 40 件程度	2007 年 2 月 2 日	1 件当り 2,000 万円まで	自然科学の基礎となる独創的、 かつ先駆的研究とともに、す ぐれた着想で新しい領域を開 拓する萌芽ともなる研究（原 則として個人研究）。
新化学発展協会 2007 年度研究奨 励金	(社)新化学発展協会 ☎ (03) 3263-8820 〒 101-0041 千代田区神田須田町 1-12	7 課題、 各課題 1 件	2007 年 1 月 31 日	1 件 100 万円	新化学の発展に資する若手研 究者（39 歳以下）の研究に対 して、研究奨励金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財 団 2007 年度研究 奨励	(財)山田科学振興財団 ☎ (06) 6758-3745 〒 544-8666 大阪市生野区巽西 1-8-1	10 件程度 (2 件)	2007 年 3 月 31 日	1 件当たり 100～500 万円、 総額 4,000 万円	自然科学の基礎的研究に対し ての研究費援助。 〔推薦書は山田財団HPよ りダウンロード www.yamadazaidan.jp〕
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎ (03) 3263-1722 〒 102-8471 千代田区一番町 6 日本学術振興会内	1 件 (1 件)	2007 年* 5 月 18 日	賞状、賞牌、 1,000 万円	生物学の研究において世界的 に優れた業績を挙げ、世界の 学術進歩に大きな貢献をした 研究者。
第 25 回研究助成	(財)持田記念医学薬学振興財団 ☎ (03) 3358-7211 〒 160-0003 新宿区本塩町 7-6 四谷ワイスビル	総額 6,000 万円	2007 年* 6 月 30 日	1 件 100 万円	生命科学・薬物科学・情報科 学と医療応用の研究の分野に おける研究で、顕著な功績が あり、かつ新進気鋭の研究者。
第 24 回国内およ び海外留学補助 金		総額 1,000 万円	2007 年* 6 月 30 日	1 件 50 万円	
第 24 回持田記念 学術賞		2 件以内 (1 件)	2007 年* 7 月 31 日	1 件 500 万円	
平成 20 年度笹川 科学研究助成	(財)日本科学協会 ☎ (03) 6229-5365 〒 107-0052 港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル	約 350 件	募集期間 2007 年* 10 月 1 日 ～ 10 月 13 日	1 件当り 100 万円 まで	人文・社会科学および自然科 学（医学を除く）の研究計画 に関するもの。4 月 1 日現在、 35 歳以下の若手研究者へ助 成。
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 ☎ (03) 3985-3500 〒 171-0033 豊島区高田 3-26-3	2 件以内 (1 件)	2007 年* 9 月 7 日	金牌、 2,000 万円	生命科学の栄養学、薬学、基 礎および臨床医学、社会医学、 東洋医学で顕著な業績を挙げ、 引き続き活躍中の研究者。
第 24 回井上学術 賞	(財)井上科学振興財団 ☎ (03) 3477-2738 〒 150-0036 渋谷区南平台町 15-15-601	5 件以内 (2 件)	2007 年* 9 月 20 日	賞状、金メダル、 200 万円	自然科学の基礎的研究で特に 顕著な業績を挙げた者（ただ し締切日現在満 50 歳未満）。
第 16 回木原記念 財団学術賞	(財)木原記念横浜生命科学振興 財団 ☎ (045) 825-3487 〒 244-0813 横浜市戸塚区舞岡町 641-12	1 件 (1 件)	2007 年* 9 月 30 日	賞状、記念牌、 200 万円	最近において生命科学の分野 で優れた独創的研究を行って いる国内の研究者で、原則と して締切日現在 50 歳以下の 者。
畜産技術協会平 成 20 年度委託研 究開発課題	(社)畜産技術協会 ☎ (03) 3836-2301 〒 113-0034 文京区湯島 3-20-9	ホームペー ジ 参照 http://jlta.lin. go.jp	2007 年* 12 月 18 日	1 課題につき 2 年 間で総額 500 万円 以内	食料の自給率向上、安定供給 及び農業の持続的発展、農村 の振興に資する畜産技術に関 連した課題を募集。
平成 19 年度日産 科学賞	(財)日産科学振興財団 ☎ (03) 3543-5597 〒 104-0061 中央区銀座 6-16-9	1 件 (1 件)	2007 年* 10 月 13 日	賞状、500 万円	自然科学分野で、学術文化の 向上・発展に大きな貢献をし た新進気鋭の研究者。年度に より、対象研究分野の指定有 り。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 ☎ (047) 350-6103 〒 279-8555 浦安市美浜 1-8-1 東レビル	2件前後 (2件)	2007年* 10月10日	1件につき 賞状、金メダル、 500万円	学術上の業績顕著な者、学術上重要な発見をした者、重要な発明により効果が大きい者、技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。 今後の研究の成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる、独創的、萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者(原則として45歳以下)。
東レ科学技術研究助成		総額 1億3,000万円 10件程度 (2件)	2007年* 10月10日	特に定めず最大 3,000万円程度 まで	
第39回科学振興賞	(財)内藤記念科学振興財団 ☎ (03) 3813-3005 〒 113-0033 文京区本郷 3-42-6 NKDビル8階	1件 (1件)	2007年* 10月1日	金メダル、 500万円	人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
第39回海外学者招へい助成金		(前期・後期各 10件)	2007年* 6月1日 10月1日	1件 20~60万円ま で(エリアによる)	同上のテーマに取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者を招へいする受入れ責任者に贈呈。
ブレインサイエンス財団研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 ☎ (03) 3273-2565 〒 104-0028 中央区八重洲 2-6-20	8~10件	2007年* 10月26日	1件 100万円	ブレインサイエンス研究分野において独創的で国際的評価に値する研究者。
塚原伸見記念賞		1件		1件 100万円	生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている45歳以下の研究者。
海外派遣研究助成		若干件		1件 30万円まで	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは研究者の派遣を助成。
海外研究者招聘助成		若干件	2008年* 1月18日	1件 30万円まで	同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
平成20年度研究助成	(財)長瀬科学技術振興財団 ☎ (06) 6535-2117 〒 550-8668 大阪市西区新町 1-1-17	10数件	2007年* 11月30日	1件 250万円以内	生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関。
2008年度研究集会助成	(財)ノバルティス科学振興財団 ☎ (03) 5464-1460 〒 106-0031 港区西麻布 4-16-13 西麻布 28 森ビル 10F	5~6件 (1件)	2007年* 9月30日	1件 50万円	わが国で開催される生物・生命科学およびそれに関連する化学の領域における研究集会に対し、運営経費の一部を助成する。研究集会はかなりの数の国外からの参加者を含む国際性豊かな集会でなければならない。ただし、参加者が1,000名を越すような大規模な研究集会および2国間の研究集会は原則として助成対象としない。
日本学術振興会賞	(独)日本学術振興会 ☎ (03) 3263-1762 〒 102-8471 千代田区一番町 6 番地	20件程度	2007年* 6月4日 ~8日	賞状、賞碑、 110万円	人文、社会科学及び自然科学にわたる全分野が対象。我が国で5年以上大学等研究機関に所属しており、国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められた研究者(45歳未満)。
(財)材料科学技術振興財団 山崎貞一賞	(財)材料科学技術振興財団 ☎ (03) 3415-2200 〒 157-0067 世田谷区喜多見 1-18-6	各分野 1~2件	2007年 4月30日	賞状、金メダル、 300万円	授賞対象は、「材料」、「半導体及び半導体装置」、「計測評価」、「バイオサイエンス・バイオテクノロジー」の4分野からなり、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた業績をあげている者。

()内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合、本学会の推薦枠を示しています。

*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年の締切日を参考に示してあります。

◆会議報告「第 20 回国際生化学・分子生物学会議」

- 会 議 名 称：第 20 回国際生化学・分子生物学会議
- 本会議開催期間：平成 18 年 6 月 18 日(日)～6 月 23 日(金)
- 本会議開催場所：国立京都国際会館、京都宝ヶ池プリンスホテル（京都市）
- 参 加 国 数：72 カ国、1 地域
- 参 加 者 数：海外 1,099 人（外同伴者 96 名）
 国内 8,182 人（外同伴者 100 名）
 計 9,281 人（外同伴者 196 名）

○組織委員

会長	本庶 佑
事務局長、総務委員長	谷口直之
プログラム委員長	中西重忠
財務委員長	新井賢一
募金委員長	上代淑人
委員（IUBMB 対応）	柳田充弘
第 11 回アジア・オセアニア生化学者・ 分子生物学者連合組織委員長	二井將光
Domestic Liaison Committee 委員長	杉野明雄
総務副委員長	鈴木敬一郎

顧問 安楽泰宏

ヤングサイエンティストプログラム委員長 仲野徹
公開講演会担当 生田宏一

●会議開催の経緯

国際生化学・分子生物学連合（IUBMB）は日本学術会議が加盟している学術団体であり、3 年に一度、国際会議（IUBMB Congress）を開催しており、39 年前に東京にて第 7 回の国際会議を開催している。その国内対応組織である日本学術会議生化学研究連絡委員会は、社団法人日本生化学会と連携し、さらに、日本分子生物学会の合意を得て、招致を検討し、平成 9 年（1997 年）、サンフランシスコ市で開催された IUBMB 理事会でわが国での開催を提案し、平成 11 年（1999 年）5 月 15 日に開催された理事会（サンフランシスコ市）において、満場一致で京都市（2006 年）での開催が承認された。またアジア・オセアニア生化学・分子生物学者連合（FAOBMB Congress）、日本生化学会大会、日本分子生物学会年会を兼ね、また日本細胞生物学会の共催をもって開催されることとなった。

●会議開催の意義

本国際会議の日本開催は、アジア・オセアニア生化学者・分子生物学者連合と国際生化学・分子生物学連合が共同主催することにより、アジア・オセアニアの国・地域の生化学・分子生物学の研究者をはじめとして、広く、産官学のライフサイエンスの研究開発に従事する者に多大の影響をあたえ、この分野での今後の活動やライフサイエンスの発展に大きく寄与することになったと思われる。特にアジア・オセアニアの国・地域におけるネットワークづくりについては一段の進歩が期待されている。また、2009 年の次期国際会議は上海での開催が決定されており、我が国での開催が

今後のアジア・オセアニアにおけるライフサイエンスの著しい発展に大きく貢献したと思われる。

本会議においては、ゲノム、DNA など分子レベル、細胞レベルでの知見、とりわけ生命の発生、分化、再生、癌、動脈硬化、その他の生活習慣病の発症機構の解明、予防、治療等に多大な貢献をしてきたが、今回我が国で開催される会議においてはポストゲノム研究領域における生化学・分子生物学の新たな展開の仕方、また、より幅広いライフサイエンス全般における生化学・分子生物学の社会的な貢献のあり方などが討論することを目指した。具体的には、「生命：分子の統合と生物多様性」をメインテーマに、幅広く、科学と社会、教育等に関する分野横断的な事項についても研究発表が行われるように、シンポジウムなどのテーマ設定を行った。また若手研究者、アジア地域など先進国以外の参加者にも配慮し、大学院生など若手の参加費を国際会議としては極めて低額に設定した。その結果、多数の学会参加者が予想されたため、大型テントによる仮設会場を準備して会場を確保した。また費用については積極的な募金活動、産学協同企画の導入などの努力を行った。他にも YSP (Young Scientists' Program)、市民公開講演会、13 のサテライトミーティングを開催した。

今回の会議では開会式には皇太子殿下ならびに内閣府科学技術特命大臣、文部科学大臣の御臨席を仰ぎ、11 の特別講演、89 のシンポジウム、4,649 題の一般演題、31 のバイオインダストリーセミナー、展示、イブニングワークショップ、キャリアフェア、男女共同参画シンポジウムなど様々な企画が実施された。その結果、正規参加者だけで 9,281 名、展示企業関係者を加えると 1 万名を超える名実ともに生命科学では史上最大規模の学会となり、国内外にその成果を大きくアピールすることができた。特に多くの若手研究者が参加し、シンポジウムだけでなく一般演題においても熱心な討論が実施された。その成果は、将来にわたって我が国はもとより幅広く世界の生命科学研究に還元されると期待される。このように今回この会議を日本で開催したことは、我が国のこの分野の研究者・技術者に世界の多くの研究者と直接交流する機会を与えることとなり、我が国の生化学・分子生物学に関する研究を一層発展させる契機となると思われる。この国際会議の概要については今年度中に記録集という形で総括される予定である。

◆男女共同参画委員会活動報告

1) 第 6 回男女共同参画企画ワークショップについて

名古屋で開催されました分子生物学会 2006 フォーラム、12 月 8 日(金)12 時より「研究と子育ての両立をめざして」と題して、第 6 回男女共同参画企画ワークショップ(世話人：松尾勲、金井正美)が開催されました。

2006 年は、日本学術振興会による RPD 制度、文科省調整費による支援事業、JST の復帰開設、各財団のサポート等、女性研究者支援事業が数々立ち上がった記念すべき年であります。言い換えれば、今までの地道な活動が評価され施策へと現実化した飛躍の年とも言えるでしょう。

ワークショップ当日は、分子生物学会男女共同参画委員長の大隅典子先生から昨年度の男女共同参画事業の全体像につきまして、日本学術振興会・久保真希様より RPD 制度に関しての概要を、熊本大学・田賀哲也先生より分子生物学会が昨年 7 月に行ったアンケート調査結果につきまして御報告を頂きました(RPD アンケート調査結果につきましては、近日 HP で公開予定)。特に、RPD 制度の実施サイドと申請サイドの interactive な情報交換を行うと言う意味で貴重な会であったと思えます。当日は立見の方までおられ盛況で、特に若いポスドクや大学院生の方の参加も多く、また男性研究者の参加・積極的な質疑応答に本件に関する意識の高さが感じられました。(文責：金井正美)

2) 「ポスター展：女性研究者支援の今と未来」の開催について

日本分子生物学会 2006 フォーラムでは、実行委員会のご協力を得て、初の試みとして、男女共同参画専用展示室を設けていただき、「ポスター展：女性研究者支援の今と未来」を行いました。2006 年度第 1 回目の文部科学省・振興調整費を得て女性研究者支援モデル事業をスタートさせた 10 大学、あらたな支援事業を開始した科学技術振興機構（JST）や日本学術振興会（JSPS）、さらに民間の研究助成財団を中心に「女性研究者支援の現状」を報告いただきました。

フォーラム 3 日目の 12 月 8 日にはポスター発表も行われ、各出展機関の間で情報交換が熱心に行われました。会期を通じての展示は、好きな時間にじっくりとポスターを見ることが可能になり好評でした。また、女性研究者支援を推進すべき、大学の上層部の方々にもっと積極的に声をかけて、各大学の取り組みを知っていただくべきだとのフロアからの声もありました。今後も今回のようなポスター展示は継続して行われるとよいとおもいます。

なお、今回の出展大学・助成機関・助成財団は以下の 11 大学・2 機関・2 助成財団です。展示されたポスターのファイルは、男女共同参画学協会連絡会ホームページ（加盟学会などで展示された資料の項）よりダウンロードできるようになりました。

（以下ポスター展参加機関：北海道大学・東北大学・お茶の水女子大学・早稲田大学・東京農工大学・日本女子大学・東京女子医科大学・京都大学・奈良女子大学・熊本大学・名古屋大学・科学技術振興機構（JST）・学術振興会（JSPS）・味の素奨励学会・内藤記念財団）（文責：大坪久子）

3) 「女子高校生春の学校 ―ジュニア科学塾 2007 in 関西―」の開催予定について

女子高校生の科学技術分野に対する興味と理解を深め、理系分野への進学意欲を増進させることを目的として、「女子高校生春の学校 ―ジュニア科学塾 2007 in 関西―」が開催されます。主催は文部科学省、特定非営利活動法人・科学と市民社会のコミュニケーション、および、男女共同参画学協会連絡会、期日は、2007 年 3 月 21 日(水)～22 日(木)、会場は神戸大学発達科学部および兵庫県高校野外活動センター あさざり寮。対象者は女子高校生 60 名とその同伴者（保護者あるいは高校教員）15 名、計 75 名の予定。参加問い合わせ・申し込みは Email で大阪大学・北浜榮子氏 (hkitahama@hpc.cmc.osaka-u.ac.jp) まで。（詳細は以下の URL: <http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/symposium1.html>）

なお、この春の学校には、日本分子生物学会より、近江戸伸子会員（神戸大学）、篠原美紀会員（大阪大学）、真木智子会員（奈良先端科学技術大学院大学）の各氏が実行委員として参加、女子高校生達の実験と結果発表の指導を担当されます。（文責：大坪久子）

◆各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○第 6 回日本再生医療学会総会

会 期：2007 年 3 月 13 日(火)～14 日(水)

会 場：パシフィコ横浜

会 長：赤池 敏宏（東京工業大学大学院生命理工学研究科生体分子機能工学専攻 教授）

テーマ：科学技術・倫理のシンクロナイゼーションに基づく再生医療

―再生医療が創る 21 世紀の医療―

総会事務局：

東京工業大学大学院生命理工学研究科生体分子機能工学専攻 赤池研究室

〒226-8501 横浜市緑区長津田町 4259 B-57

運営事務局：

〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル

株式会社コングレ内

Tel：03-5216-5318 Fax：03-5216-5552

E-mail：jsrm2007@congre.co.jp

プログラム（予定）

- ・ヒト ES 細胞の実用化を目指して
- ・臨床応用の最前線 I（皮膚・角膜再生の実際）
- ・再生医工学のための材料工学・加工技術の最前線
- ・歯科の未来を拓く再生医療
- ・ヒト疾患モデルとしてのゼブラフィッシュ・メダカ器官形成・再生システムの解明
- ・Neuro-modulation: われわれはいかに脳機能を制御するか
- ・生殖医療と再生医療における倫理
- ・創薬を支える再生医療の新展開：細胞機能維持のための基盤技術とスクリーニングシステムへの応用
- ・臓器再生を目指した三次元再生組織構築の戦略
- ・臨床応用の最前線 II（硬組織・心（血管）再生の実際）
- ・肝臓発生学からみた ES 細胞と体性幹細胞による肝臓構築 – 医療・産業化への道
- ・再生医療のためのバイオマテリアル
- ・再生医療のための細胞ソース
- ・がん幹細胞と組織幹細胞の接点
- ・多細胞社会が特定構造を再現性良く構築できるメカニズム
- ・再生医療産業化の世界戦略 – 規正とビジネスモデル –
- ・来るべき再生医療時代を目指して – 再生医療への期待と学会の役割 –
- ・ヒト組織とバンキング・コーディネーション

○第7回日本蛋白質科学会年会

名称：第7回日本蛋白質科学会年会

年会長：熊谷 泉（東北大学大学院工学研究科）

主催：日本蛋白質科学会

会期：2007年5月24日(木)～26日(土)

会場：仙台国際センター（仙台市青葉区青葉山）

<http://www.sira.or.jp/icenter/access.html>

- シンポジウム
1. 蛋白質の立体構造から疾患メカニズムに迫る
 2. Chemical Biology と蛋白質科学の接点
 3. 公募型シンポジウム<講演 20分、討論 10分に耐えうるまとまった研究を5演題程度募集>
- ワークショップ
1. 生体システムの制御の基盤となる蛋白質の構造変化
 2. 小分子によるシグナル伝達機構
 3. 遺伝子暗号拡張による蛋白質の部位特異的修飾
 4. 歩き始めた新しい構造研究プローブ
 5. 蛋白質科学と蛋白質産業：シーズとニーズの交差点
- 他7題

参加登録期間：2007年2月15日(木)～4月10日(火)

一般演題募集期間：2007年2月15日(木)～3月5日(月) ※公募型シンポジウムへの応募演題は2月28日(水)締切

(詳しくは：<http://www.aeplan.co.jp/pssj2007/>)

連絡先：第7回日本蛋白質科学会年会事務局

E-mail：pssj2007@aeplan.co.jp

Tel：022-254-7055 / FAX022-388-8205

○第10回マリンバイオテクノロジー学会大会

大会日程 平成19年5月26日(土)～27日(日)

会場 山形大学小白川キャンパス教養教育棟

大会役員 大会会長 森澤 正昭 山形大学理学部教授
大会副会長 原 慶明 山形大学理学部教授
実行委員長 木島 明博 東北大学大学院農学研究科教授

大会事務局 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

山形大学理学部生物学科内

第10回マリンバイオテクノロジー学会大会実行委員会

TEL / FAX 023-628-4612, -4613 / 023-628-4625

Mail marbiotech@sbiol.kj.yamagata-u.ac.jp

懇親会 開催日 5月26日(土) 18:00～20:00

場所 山形大学小白川キャンパス厚生会館

大会の内容

1. 一般講演(口頭発表、ポスター発表)、2. シンポジウム(一般)、3. 懇親会

※ シンポジウムの企画を公募いたします。シンポジウムの企画をご希望の方は大会事務局までご連絡下さい。

発表形式

1. 口頭発表：一般講演は質疑含み15分、液晶プロジェクター使用

2. ポスター発表：学生を対象とした優秀ポスターの表彰を予定

一般講演のセッション

1. 微生物、2. 微細藻類、3. 海藻・付着生物、4. 魚介類、5. 天然物化学・未利用資源、
6. バイオミネラリゼーション、7. マリンゲノム、8. 環境・環境適応、9. その他

発表申込の締め切り 平成19年3月16日(金) 必着

発表要旨の締め切り 平成19年4月20日(金) 必着

講演申し込み方法

発表希望の方は書式にしたがって、申込者氏名・所属および連絡先、発表希望セッション、希望発表形式、発表者氏名・所属略記(連名の方全員)、演題を明記の上、申し込んで下さい。申し込みはメールまたは郵送で受け付けます。詳細は大会ホームページでご確認下さい。

参加登録方法

参加登録希望の方は書式にしたがって、申込者氏名・所属および連絡先を明記の上、メールまたは郵送で申し込んで下さい。詳細は大会ホームページでご確認下さい。

第10回大会ホームページアドレス：<http://www-sbiol.kj.yamagata-u.ac.jp/~jsmb/mbt2007/>

学会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmb/>

日本分子生物学会 会報
年3回刊行

第86号 (2007年2月)
発行：日本分子生物学会
製作：日本分子生物学会 事務局